

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	環境倫理学
科目基礎情報						
科目番号	0116		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電気システム工学専攻（電気電子工学コース）		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：鬼頭秀一/福永真弓(編著)『環境倫理学』、東京大学出版会；その他の教材・資料については、講義中に適宜配布する。					
担当教員	藤木 篤					
到達目標						
1. 現実が生じている環境問題の実情を理解する。 2. 旧来の環境倫理学で主流となっている、「二項対立」図式の長所と短所を的確に捉えることができる。 3. 「二項対立」図式に代わる、新たな環境倫理学理論が求められていることを理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	現実が生じている環境問題の実情を理解している。		現実が生じている環境問題の実情に関する知識を有している。		現実が生じている環境問題の実情を理解できていない。もしくは理解が不十分である。	
評価項目2	「二項対立」図式の長所と短所を的確に捉えた上で、事例分析の際の有用なツールとして二項対立図式を活用することができる。		「二項対立」図式の長所と短所を的確に捉えることができる。		「二項対立」図式の特徴が理解できていない。もしくは不十分な理解に留まっている。	
評価項目3	「二項対立」図式に代わる、新たな環境倫理学理論が求められていることを、その背景とともに理解し、さらに実際にそうした理論を創出しようとする態度・志向性を有している。		「二項対立」図式に代わる、新たな環境倫理学理論が求められていることが理解できる。		「二項対立」図式に代わる、新たな環境倫理学理論が求められていることが理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE F-1 JABEE F-2						
教育方法等						
概要	この授業では、旧来の環境倫理学が解決しようとした問題はいったいどのようなものであるのか、彼(女)らの試みのどのような点において理論的な不十分さが認められるのか、そして私たちはどのようにそれら乗り越えて行くべきなのか、研究の最前線を担う環境倫理学者たちの論評をもとに考察する。					
授業の進め方・方法	・担当者の作成したレジュメを参照しながら、教科書の内容を批判的に吟味する。 ・担当者は各章ごとに定める。初回(序章)は担当教員がレジュメを作成する。 ・担当者は、自らがまとめたレジュメをもとに、受講者全員の前で各章の要約を行う(数分程度)。その後、担当教員による講義を行う。 ・理由の如何を問わず、レジュメの作成を怠った場合は大幅に減点する。※なお授業時数の関係上、第1, 6, 12, 13章については本講義では扱わない。					
注意点	点数配分：レジュメ作成および発表30%、課題レポート(1～3回)70%を目安として評価する。 再試験：行わない。 評価基準：60点以上を合格とする。 本科目は学修単位科目であるので、授業時間以外での学修が必要であり、これを課題として課す。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス (授業の進め方、成績評価方法、再試験の有無等)	本授業の目的と概要、評価方法について理解する。		
		2週	序章 環境倫理の現在―二項対立図式を超えて	旧来の環境倫理学で主流となっていた、「二項対立」図式の特徴と難点について理解できる。		
		3週	第2章 自然・人為―都市と人工物の倫理	従来の環境倫理学において、環境保護の対象から除外されてきた都市と人工物が、人類社会の「環境」を構成する重要な要素であることが理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。		
		4週	第3章 生命・殺生―肉食の倫理、菜食の倫理	「肉食か菜食か」という問いの立て方では、私たちは肉食文化を維持することに付随する倫理的諸問題の実相を捉え損なってしまう、ということが理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。		
		5週	第4章 公害・正義―「環境」から切り捨てられたもの/者	水俣病から現代の環境問題への歴史を基盤に、環境正義の概念が理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。		
		6週	第5章 責任・未来―世代間倫理の行方	予防原則と世代間倫理の基本理念を、それらが生じてきた時代背景も含めて理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。		
		7週	第7章 「外来対在来」を問う―地域社会のなかの外来種	「外来種=悪」という図式を批判的かつ慎重に吟味することができる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。		
		8週	第8章 「持続可能性」を問う―「持続可能な」野生動物保護管理の政治と倫理	多くの事例には、語り手が自身の関心・都合に合わせて問題の構造を描写する、いわゆる「フレーミング」が施されているということを、野生動物保護管理を事例にして理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。		

4thQ	9週	第9章 「文化の対立」を問うー捕鯨問題の「二項対立」を超えて	捕鯨問題が純粋な環境問題ではなく、政治的・社会的・文化的・倫理的問題でもあることが理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。
	10週	第10章 「自然の再生」を問うー環境倫理と歴史認識	自然環境保護や自然再生事業について考える際、自然観と歴史認識の問題が深く関与するということが理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。
	11週	第11章 「地球に優しい」を問うー自然エネルギーと自然「保護」の隘路	風力発電を批判的に検討することで、新技術は必ずしも問題を解決するわけではなく、新たな問題を生み出す可能性もはらんでいることを理解する。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。
	12週	第14章 政策から政/祭へー熟議型市民政治とローカルな共的管理の対立を乗り越えるために	熟議型市民政治とローカルな強敵管理という二つの意思決定モデルの有用性と限界が理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。
	13週	第15章 安全(ゼロリスク)から危険(リスク)へー生態リスク管理と予防原則をめぐる	技術者をはじめとする専門職業人と、一般市民のような非専門家の間には、「なにをもって安全とするか」という点において意見の相違が見られることがある、ということが理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。
	14週	第16章 制御(コントロール)から管理(マネジメント)へー包括的ウェルネスの思想	環境問題の解決策を模索する上で、問題をトレードオフの構造に当てはめることは得策ではない、ということが理解できる。また自ら具体的な事例を挙げ、さらに当該事例を本章の議論を応用しながら分析することができる。
	15週	終章 および まとめ	技術者に課せられた環境配慮義務を、適切に履行しようとする積極的な意志が身についている。
16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	後2,後3,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	後5,後6,後11,後12,後13,後14,後15
			技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力(どのように問題を捉え、考え、行動するか)を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。	3	後2,後3,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
--	----	----	------	----	---------	------	----

総合評価割合	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能力	0	15	0	0	0	35	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	15	0	0	0	35	50